人とロボットが一緒に暮らす家

～リキット・ライフ・ホーム～

吉田颯人

動機

ヒューマノイドロボットを生活に取り入れることが実現可能であるといわれている中今の住宅ではロボットに膨大なデータのプログラミングを組むことになりコスト的にも技術的にも困難になってしまうのでロボットに住宅を合わせてプログラミングの簡易化、コストダウンを図る

目的

ロボットとの対話や共同作業を通じて、住人のメンタルヘルスを向上させる。

調理・掃除・洗濯をロボットが連携して行い、人間に「自由な時間」をプレゼントする。

ロボットの短所、長所を理解しそれらを生かすための生活導線やロボット専用の部屋を設ける

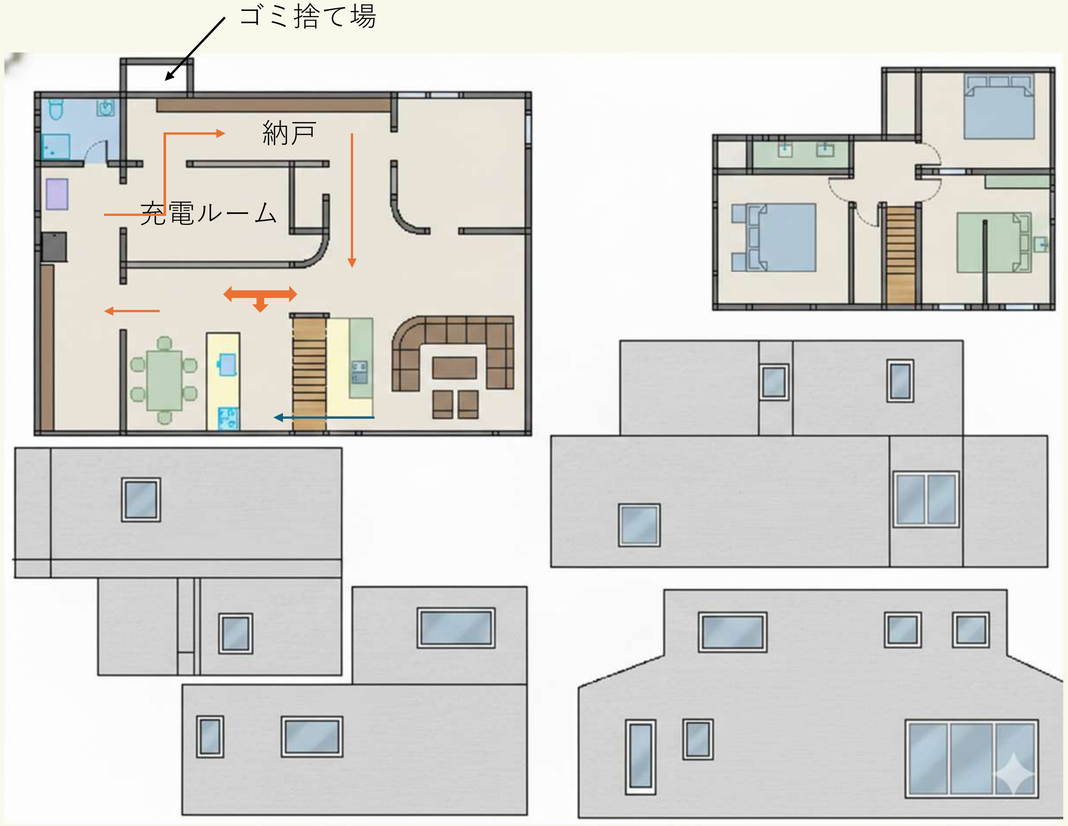
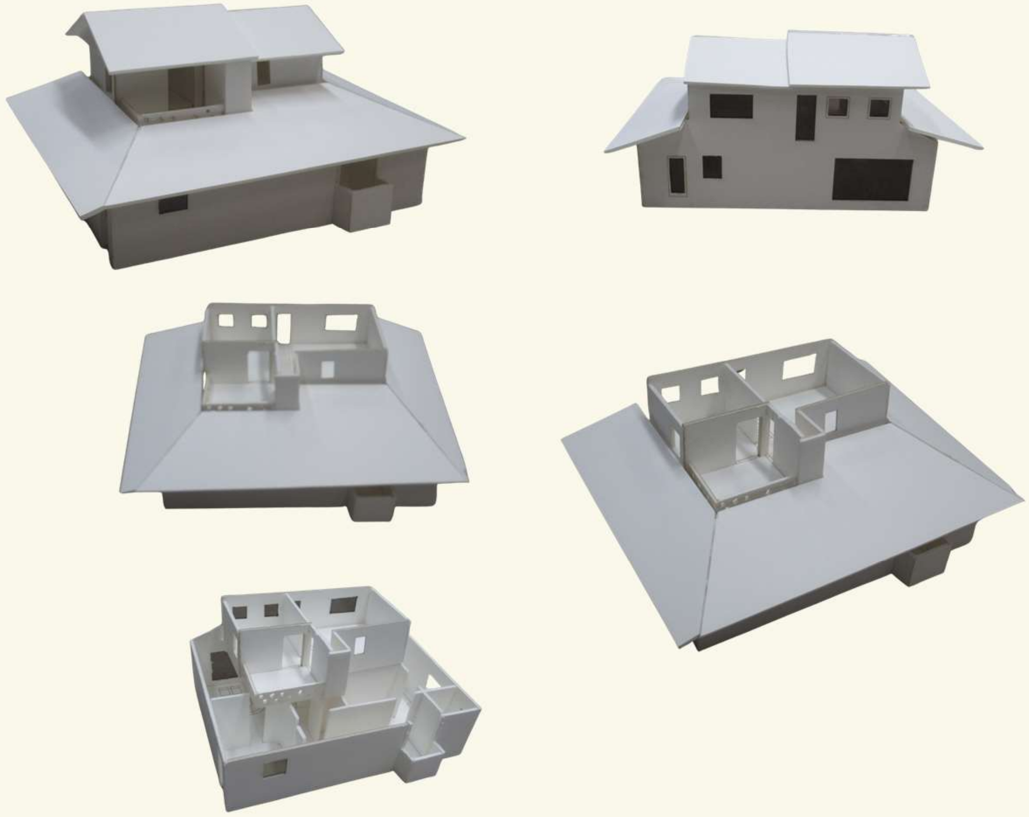
仮説

立地や広さだけでなく、その家がいかにロボットを安く、効率的に動かせる構造かどうかが価値の基準になりロボットにすべてを任せるのではなく、「あえて一緒に作業する」ことがメンタルヘルス向上の鍵になると考えました

人間の居住空間とロボットの作業空間を明確に分ける「2層構造」の間取りが必要と考え、ロボットは専用通路を通って各部屋へアクセスし、洗濯物やゴミを自動で回収・処理することで、人間は「ロボットの動作」を気にせず暮らせると思われる

まとめ

このテーマにして家を建てるときはこの先どのような技術が発展し暮らしが変わったとしても対応ができる建築物を建てることが重要だと気付きました。

そしてこの研究を通して人のためだけの住宅でなく今後どんな技術や環境にも対応可能なための建築物を建てる想像力を生かして社会に貢献していきたいと考えています

模型・製図